

視察（研修）報告書

平成 28 年 8 月 23 日

府中市議会議長 様

会派名又は 公明党
議員名 大本 千香子

日 時	平成 28 年 8 月 23 日(月) 9:30～17:00
視察（研修）先	TKP 京都四条烏丸カンファレンスセンター 2階 〒600-8423 京都市下京区釘隠町 地方議会総合研究所主催
視察（研修）項目	議員・職員のための議会広報セミナー
参加者	大本 千香子
視察（研修）内容	<p>①もっと読まれる議会広報へ</p> <p>②広報スキルアップ講座</p> <p>講師 広報アナリスト：吉村潔氏 町村議会広報全国コンクール審査委員</p> <p>・合議体としての議会広報であること ・わかりやすいだけでなく、コミュニケーション力が必要であること。スマホ・タブレットなど現在は、紙ベースで見るより小さな画面、電子媒体で見ることが主流になりつつある。自宅パソコンからというより、携帯から情報を得る。 ・地方創生事業や、18歳選挙権導入により若者の声が是非聴きたい状況が生まれている。 ・議会報告会のまとめ方、掲載の仕方、いただいたご意見・質問に対するバックの流れの確立。議会としての視点 ・基本的な、魅力的なレイアウト、余白の力、写真の構図、文字の大きさ、コメントのつけ方、色の使い方、大きな写真を使う方法など、大変参考になった。 ・参加各市の議会だよりを丁寧にクリニックしていただき、具体的な指摘をいただけてありがたかった。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会の報告で終わる広報でなく、お出かけ広聴、特集記事、議会だよりサポーターなど市民の声を、リアルタイムでのせられることも今後の、広報・広聴委員会の使命になると思う。
<p>所 感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わが市の議会だよりを点検していただき、情報量が多すぎる。余白がある程度ないと読みづらいこと。手に取りたくなるメッセージ性がほしいこと。議案について紙面のあちこちに関連記載があるのは、市民から読みにくい。討論、出た意見なども、一つの議案についてはまとめたほうが親切。写真も動きの有る写真。親しみを持てる紙面に。とアドバイスいただいた。 ・議会事務局がたよりを作成しているところもあったが、多くの市町で、もっと楽しみにしてもらえる広報誌にと意気込まれているのがわかり、わが市でもさらにバージョンアップすべきと感じた。 ・広報広聴委員会として、範囲が大きく広がっている。市民の声をいち早く聞ける最前線の委員会でなければならないと思う。出かける、企画を組んで市民と語る、高校生・中学生などを巻き込む等、打って出る委員会を目指したい。 ・市民の議会に対するアンケート定期的に取りるべきではないか。